

平成29年度 第2四半期（7月～9月）

景気動向調査結果報告

豊橋商工会議所 中小企業相談所

全産業業況DI値は前回調査から11.7ポイント改善、平成28年度第2四半期から25.2ポイント改善

■全業種概要

全産業の総合判断DI値は8.4となり、前回調査（▲3.3）から11.7ポイント改善、平成28年度第2四半期（▲16.8）から25.2ポイント改善し、14四半期ぶりにプラスに転じた。

来期見通し（10月～12月）については、業況DI値は0.6となり、前回調査（0.0）から0.6ポイント改善、平成28年度第2四半期（▲12.3）から12.9ポイント改善が予測されている。

全6業種でDI値の改善が見られ、抜きん出て大幅なV字回復に至った卸売業以外は2四半期以上右肩上がりを示し、景気の回復傾向が鮮明になった。一方で、依然として慢性的な人材不足や需要の停滞を訴える声も聞かれ、予断を許さない状況。

■製造業

業況DI値は16.5となり、前回調査（13.6）から2.9ポイント改善、平成28年度第2四半期（▲6.6）から23.1ポイント改善した。

好調な鉄工業を中心に改善を牽引しており、5期連続で業況は上向き傾向。自動車関連の需要環境は緩やかな回復基調が続き、産業機械も需要回復が継続しているとの声が聞かれた。製材業では、需要増に対して人手が不足しているとの声が聞かれた。

来期見通しについて、菓子製造業では、原材料価格の上昇が続けば、収益悪化が懸念されるとの声が聞かれた。

経営上の問題点としては、「生産設備の不足・老朽化」、「従業員の確保難」、「消費者・製品ニーズの変化への対応」が主に挙げられる。

■建設業

業況DI値は3.6となり、前回調査（▲12.0）から15.6ポイント改善、平成28年度第2四半期（6.7）から3.1ポイント悪化した。

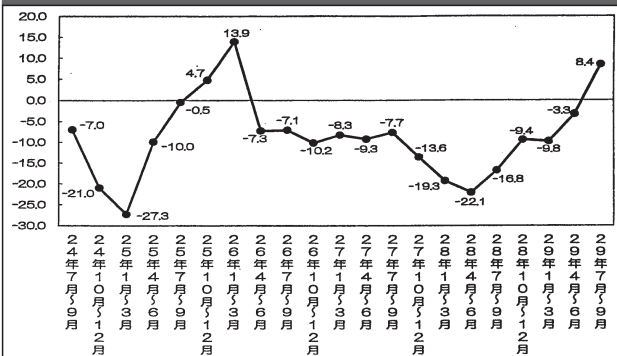
民間需要の上昇が追い風となり、DI値は2期連続で回復し、プラス値を示した。一方で、官公需要は停滞・減少傾向にあり、業況が悪化したとの声が聞かれた。また、管工事業では、人手不足に加えて下請け業者も確保が難しいとの声も聞かれた。

来期見通しについて、土木工事業では、官公需要の伸びに期待したいとの声が聞かれた。

経営上の問題点は、「官公庁需要の停滞」、「請負単価の低下・上昇難」、「熟練技術者の確保難の低下・上昇難」、が主に挙げられる。

● 調査対象
(1)対象地区：豊橋市内
(2)対象企業数：353社
(3)回答企業数：185社（回答率 52.41%）
● 調査期間
平成29年7月～9月
● 調査方法
往復ハガキによるアンケート調査
● 回答企業の内訳
製造業88・建設業29・卸売業18
小売業20・運輸業15・サービス業15

全業種



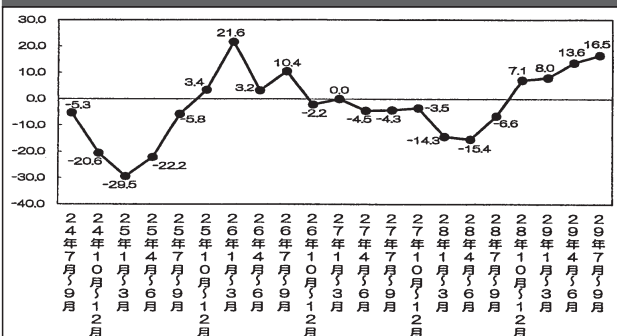
《A》 前年同期（平成28年7月～9月）と比較した景況感

良い	同様	悪い	DI値	
25.7%	57.0%	17.3%	8.4	↑

《B》 来期（平成29年10月～12月）の景況見通し

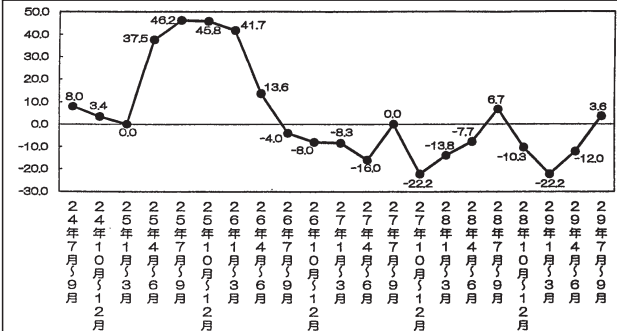
良い	同様	悪い	DI値	
18.5%	63.6%	17.9%	0.6	↑

製造業



【今期の景況】平成29年7～9月 業況 16.5 ↑
【来期見通し】平成29年10～12月 業況 9.8 ↑

建設業



【今期の景況】平成29年7～9月 業況 3.6 ↓
【来期見通し】平成29年10～12月 業況 ▲11.1 ↓

■卸売業

業況DI値は▲5.6となり、前回調査（▲45.5）から39.9ポイント改善、平成28年度第2四半期（▲47.6）から42.0ポイント改善した。

民需向けの建材卸売業を中心に大幅にDI値が改善したもの、全体としては依然としてマイナス圏を推移している。菓子卸売業では、原材料価格の高騰に伴い、仕入単価が上昇したことで、採算が取れないとの声が聞かれた。

来期見通しについては、大半の企業から在庫過剰の解消が課題との声が聞く聞かれた。

経営上の問題点としては、「需要の停滞」、「従業員の確保難」、「販売価格の低下・上昇難」が主に挙げられる。

■小売業

業況DI値は▲10.0となり、前回調査（▲20.0）から10.0ポイント改善、平成28年度第2四半期（▲25.0）から15.0ポイント改善した。

季節物の飲食料やバーゲンセールの上昇が堅調に推移しており、DI値は上向いているものの、消費者ニーズの激しい変化への対応如何が回復の鍵を握っているとの声が聞かれた。石油製品小売業では、CO₂排出規制による燃料転換の進行や省燃費車の増加により売上が減少したとの声が聞かれた。

来期見通しについて、茶類小売業では、冬場の伸びに期待したいとの声が聞かれた。

経営上の問題点としては、「需要の停滞」、「従業員の確保難」、「消費者・製品ニーズの変化への対応」が主に挙げられる。

■運輸業

業況DI値は14.3となり、前回調査（▲6.7）から21.0ポイント改善、平成28年度第2四半期（▲53.8）から68.1ポイント改善した。

豊橋地区においては、台風等大きな天候不順が少なかったことで建設資材・食料品輸送が好調に推移し、DI値は9四半期ぶりにプラスに転じた。一方で、他地域との天候不順による野菜の育成不良で売上が減少したとの声も聞かれた。

来期見通しについては、深刻な人材不足が続き、コストアップが懸念されるとの声が聞かれた。

経営上の問題点としては、「従業員の確保難」、「人件費の増加」、「運送単価の低下・上昇難」が主に挙げられる。

■サービス業

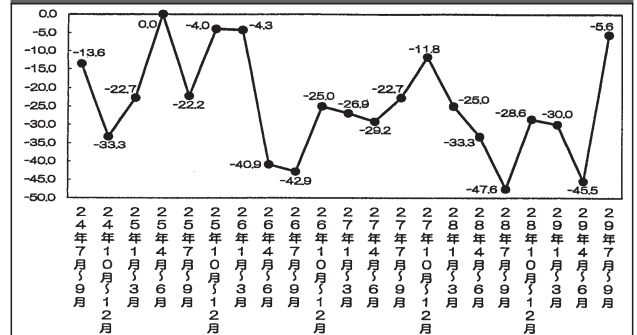
業況DI値は7.1となり、前回調査（0.0）から7.1ポイント改善、平成28年度第2四半期（▲37.5）から44.6ポイント改善した。

旅行業では、健康志向のツアーが好調を維持するなどの声が聞かれ、DI値は4年ぶりにプラス値へ回復した。一方、宿泊業では、同業他社との競争激化により、客数の減少傾向が見られたとの声が聞かれた。

来期見通しについて、メンテナンス業では、最低賃金の改定に伴う人件費上昇により収益率の低下が見込まれるとの声が聞かれた。

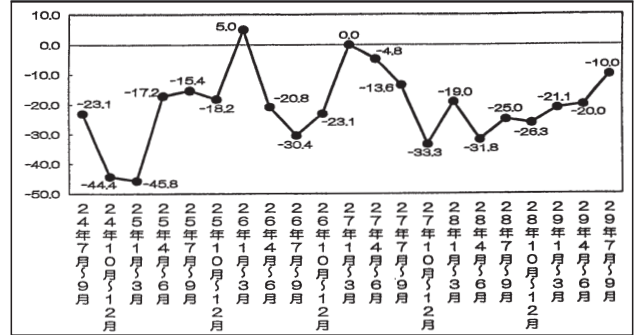
経営上の問題点としては、「人件費の増加」、「同業店の進出」、「従業員の確保難」、が主に挙げられる。

卸売業



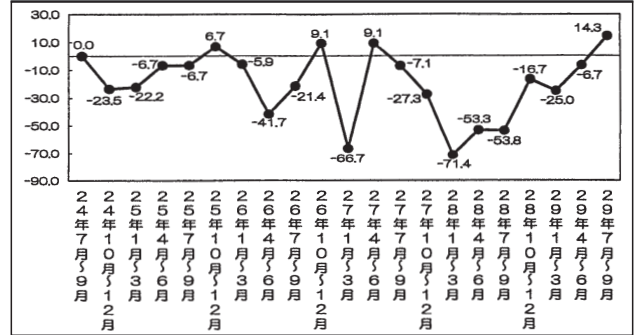
【今期の景況】平成29年7～9月 業況 ▲5.6 ↑
【来期見通し】平成29年10～12月 業況 ▲11.1 ↑

小売業



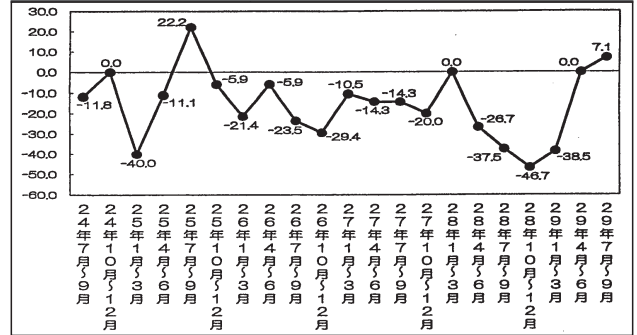
【今期の景況】平成29年7～9月 業況 ▲10.0 ↑
【来期見通し】平成29年10～12月 業況 ▲11.8 ↑

運輸業



【今期の景況】平成29年7～9月 業況 14.3 ↑
【来期見通し】平成29年10～12月 業況 0.0 ↑

サービス業



【今期の景況】平成29年7～9月 業況 7.1 ↑
【来期見通し】平成29年10～12月 業況 0.0 ↑